



東日本大震災 被災者支援 北海道民医連ニュース

2011.4.22

宮城民医連職員の皆さんの被災状況

4月12日時点でまとめられたものです（中間まとめ）。
あらためて、お亡くなりになった皆様のご冥福を心からお祈り申し上げます。

| | | | |
|--------------------|-----|--------------|-----|
| 職員でお亡くなりになった方 | 4人 | *利用者で亡くなられた方 | 13人 |
| 負傷された方 | 13人 | | |
| ご家族に死亡・行方不明の方がいる職員 | 33人 | | |
| 自宅が崩壊した職員 | 61人 | | |



公民館が流されてしまった地区の臨時診療所（大船渡市大洞地区） テント内にシーツをつるして診療スペースを作っています。

大船渡チームから 佐々木 悟 医師（道南）

20日、地域の民生委員の案内で11軒の訪問診療をしました。

90才代のご夫婦の話し…「明治の津波でも ここまで 水はこなかったと 伝え聞いて逃げなかった」。結果、家は天井まで津波に洗われ、息子さんの機転で軽トラックで逃げたので、なんとか命びろいしたということでした。

御主人が口渴を訴えるので、薬袋を確認したところ、糖尿病薬が流され紛失して内服していなかったことに気がつきました。

一緒にまわっていたメンバーが、津波後40日間行方不明だった飼猫を発見し感動！というエピソードもありました。

坂病院チームから 峯岸幸太郎 放射線技師（道北）

業務支援という形で坂総合病院にきました。日曜日は長町クリニックという今回の震災で壊れてしまった診療所の後片付けを手伝って来ました。建物が古く地震の揺れの影響で建物の損傷がひどく、もう取り壊しになるため、机やロッカーやカルテなどまだ使える物をひたすら運び出す作業をしました。

扉が取れていたり、壁も割れていて今にも崩れてくるのではないかと恐怖感もありましたが、無事に作業を終えました。この建物で怪我人が出なかったという事が信じられない位です。（右の写真は、地震で壊れたドア）

坂病院の中は全国から支援者が集まっていますが、通常診療に戻っていて災害後のような雑然とした雰囲気ではありません。ただ少し病院を離れると未だに言葉には出来ないような光景がまだまだ多く見られます。避難所では坂総合病院の診療ブースが設けられていて地域の医療の大部分を担っているのだと実感しました。避難所には民医連の関係者だけではなく、全国から沢山の支援の方々に来ていて長期的に支援していく事の重要性はもちろんですがその大変さも改めて感じました。



**第8次支援隊
10人
本日出発です**

（派遣者の累計は112人になりました）

| | | | |
|-----|-------------|--------|-------|
| 坂病院 | 道南・稜北病院 | 綱淵 幸彦 | 放射線技師 |
| 宮城野 | 在宅・きた居宅 | 大高 昌子 | 看護師 |
| | 道勤・札幌病院 | 溝田 顕江 | 看護師 |
| | 道勤・柏が丘 | 奥野 正樹 | 介護福祉士 |
| | 道南・稜北病院 | 朝野 久美子 | 介護福祉士 |
| 大船渡 | 在宅・ヘルパーST手稲 | 田中 亜樹 | 介護福祉士 |
| | 道勤・中央病院 | 小澄 悦子 | 看護師 |
| | 道勤・芦別診療所 | 中司 真紗美 | 看護師 |
| | 道勤・札幌病院 | 小田島 裕俊 | 事務 |
| | 北海道民医連 | 松本 征海 | 医師 |